信濃毎日新聞　平成30年　7月10日

高校野球の魅力 次世代に

長野大会開会式 復刻ユニホーム披露

8日に開幕した第100回全国高校野球選手権記念長野大会。開会式では、同選手権が「全国中等学校優勝野球大会」として初めて開かれた1915（大正4）年以前に創部した10校の復刻ユニホームが披露され、各校の部員が袖を通して行進した。その様子を見つめたOBや関係者は当時に思いを巡らせつつ、次世代に高校野球の魅力を引き継ぐ決意も口にした。

【1面参照】

開会式で選手宣誓に拍手を送る宮坂さん（右端）や奈良井さん（右から2人目）、池口さん（左から2人目）ら＝8日、松本市野球場

OBら 当時に思い巡らせ

100回目の夏

元県高野連参与の宮坂真一さん(93)＝松本市＝は、42(昭和17)年夏に甲子園球場で開かれたものの、戦争による混乱で「幻の甲子園」と呼ばれる「全国中等学校錬成野球大会」に松本商業学校（現松商学園高）のマネジャーとして出場した。「100年もの長い期間、大会が続いていることをうれしく思う。今はスポーツが多様化しているが、野球は長い歴史があるスポーツの一つ。野球がこれからも同じように継続することを希望し、期待している」と語った。

県高野連参与の奈良井宏美さん(78)＝塩尻市＝は、上田や松本深志、松本県ケ丘の各校で監督を務め、日本高野連評議員として春夏の全国大会の運営にも15年間携わった。「上田の監督の時には完全試合をやられたり、松本県ケ丘の監督の時には延長十八回まで戦ったりしたこともあった」。長男の哲也さん(46)と「同じ学校（松本深志）で野球をやれたことも思い出の一つ。どれも野球から得た大きな財産。選手、指導者として目指してきた甲子園で仕事ができたのは本当に幸せなこと」と振り返った。

松本深志高野球部OB会長の池口良明さん(66)＝松本市＝は、部史に掲載された写真を提供して今回の復刻ユニホームの製作に協力した。同校は当時とほぼデザインが変わっておらず、「伝統校の誇りを感じた」。現在は県高校野球OB連盟会長として野球人口の拡大に力を注いでいる。「自分を育ててくれた野球に恩を返すためにも、たくさんの子どもたちに野球の魅力を伝えていきたい。150年、200年先を見据えて普及に取り組んでいきたい」と話した。